

始筆

No.2

令和 3年 8月25日
小学校書写教育研究会

一学期末に行なった「京都市児童硬筆書写作品展」に多数の学校が参加してくださいました。校内審査にご協力くださった書写主任をはじめとする関係の先生方、本当にありがとうございました。校内での作品展示もお願いいたします。

審査基準と作品の見方作品の見方について

7月下旬に「京都市児童硬筆書写作品展」の審査のための審査基準と作品の見方をお伝えする動画「CD」を各校の校長先生・教頭先生宛にメールで送りました。そちらをご確認いただくと分かりやすいです。本研究会のHPにも、掲載しています。

【日常の毛筆書写学習の進め方】

三年生の教科書の1ページに「学習の進め方」が示されています。この進め方を知ること、学習過程を身に付け自立解決していく力が身に付きます。そして学習に見通しをもって安心して学習を進めていくことができます。

☆準備をしよう。

持ち物にはすべて名前を書くこと、準備図や準備の仕方の説明を定着するまで掲示します。

① 学習のめあてを確かめよう。

② 学習の始めに、硬筆や毛筆でためし書きをしよう。

教科書の各単元のページの硬筆で書く欄にためし書きをします。毛筆でも、教科書を見ずのためし書きします。書くときは、正しい姿勢、持ち方、筆順を意識させてから書き始めます。

③ ためし書きと教科書の文字を比べて、気を付けることを見つけよう。

赤鉛筆を用意します。教科書の教材文字と自分のためし書きをよく見比べます。そして直すところを赤鉛筆でチェックします。チェックの仕方は、線を引いたり言葉を入れたり矢印を入れたり、自分で分かりやすく工夫して、書きこんでいきます。自分で分かるように書きこんでいけばよしとします。

④ 気を付けることを確かめて、練習しよう。

自分のめあてが明確になったら、練習開始です。練習方法はいくつかありますが、新型コロナウイルス感染防止の観点上、児童が各自で練習できる「教科書指導書ワークシート編」の「かご字」「部分練習」「配置」等のワークシート、CD-ROM内の動画や学習プリントなどのICT機器の活用をすることで、自分のめあてに向かって、学習を進めることができます。大切なことは、「自分のめあて」に合った方法で練習することです。

⑤ 硬筆や毛筆でまとめ書きをしよう。

最後の一枚として「まとめ書き」に取り組みます。この一枚を書いているときは一切の私語を禁止し、姿勢や持ち方を確認したら一斉に書き始めさせます。

★名前も丁寧に書くように指導します。何名かの子どものためし書きとまとめ書きの作品を黒板に掲示し、頑張ったことや上達したところなど、思いや考えを伝え合います。

⑥ 学習したことを、他の文字でも確かめよう。

教科書の硬筆で書く欄に学習したことを生かして硬筆で書きこみます。

⑦ 学習したことを振り返ろう。

教科書の「ふりかえろう」の欄に、自己評価させます。その後、丁寧に後片付けをさせます。

【京都市姉妹都市作品展について】

各校三～六年生の毛筆作品を学年一点選出して、かりまき返巻に正しく貼り付けて提出していただくよう、ご協力お願いいたします。各校に作品を返巻に貼り付ける方法を書いた文書を送っています。参照の上、準備をしてください。【育成学級除く】

※各作品には、校名（ゴム印可）・学年・氏名を明記してください。（組は不要です。）作品の校名忘れがたいへん多いです。

※返巻・作品の貼り方について別紙をご参照いただくとともに9月8日（水）午後四時半～ZOOMにて本研究会のミニ講座を実施します。興味のある方は、ご参加ください。

【ミーティングID 953 7613 0065 パスワード shimai】

◇課題について

一～六文字程度の毛筆で書かれた作品

○ 書写の学習に書かれた題材のもの

× 夏休みの宿題で提出されたもの

教科書の「学習のまとめ」等に書かれた文字を使用して書かれた作品でも構いません。

【例】

【三年】 日光、幸福、進化、水、氷、安全

【四年】 自然、波音、写真、飛ぶ、羽根、竹笛、努力

【五年】 歌う、読む、ふれあい、四季、つばさ

【六年】 春、愛、桜、努力、発表、創造、完成、思い出、やさしさ、ふれあい、豊かな心、全力をつくす

この始筆の書体は、教科書体です。児童が目にする文字は、できるだけ正しい書体にしましょう。

★白表紙の小学校書写教育研究会の実践の冊子を、書写主任宛てに「始筆一号」と共に各校に送付しています。ぜひ、ご活用ください。